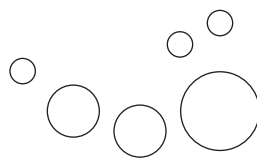


争論

キャッシュレス社会考



1. キャッシュレス化の現状と今後の課題

岩田 昭男

2. 学生の食を支えるために—大学生協におけるキャッシュレス化の現在—

関口 晴美

2019 年 10 月からの消費税率の引き上げを機に、政府の旗振りの下で急激なキャッシュレス化が図られている。今では一台のスマホがあれば、電車に乗ることも、お店での買い物も、さらに外食をすることも出来るようになってきている。加えて、キャッシュレス決済を選ぶと、値引きやキャッシュバックがあったり、ポイントがつけられるなど、消費者のお得感に訴える仕組みも広がっている。

このようにキャッシュレス化は便利かつ消費者にとって有利な変化であるように見える。しかし、昨年の北海道胆振東部地震では長期の停電によって災害時の脆弱性が問題となった。あるいはセブンペイの事例が示したように、システムの安全性も社会的には大きな関心事である。私たちは、このキャッシュレスを便利だから、お得だからという理由でただ受け入れてしまってよいのだろうか。そうした問題意識から、今回は現代のキャッシュレス化について考える争論を企画した。

まず、日本におけるキャッシュレスに

ついてのジャーナリストの第一人者である岩田昭男氏にご登場いただいた。岩田氏は NPO 法人「消費生活とカード教育を考える会」の理事長も務め、長く金融業界、なかでもクレジットカード等について取材を続けられてきた。そこで岩田氏には、日本におけるキャッシュレス化の現状、各プレイヤーの狙いやキャッシュレス化の課題について言及いただいた。次いで、生協のなかでも先駆的にキャッシュレスに取り組んできた大学生協の現状について、大学生協事業連合の関口晴美氏にお話を伺った。全国の大学生協では「ミールカード」という食堂決済におけるキャッシュレスの仕組みが広がっている。一般的なキャッシュレス化とは少し異なる、こうした取り組みを中心にお話いただいた。

キャッシュレスは流通、そして私たちのくらしをどのように変えるだろうか。そしてまた、生協はキャッシュレスにどのように向き合っていくべきか。本企画がこれらを考える一助となれば幸いである。（本誌編集委員 加賀美太記）